福翁百話（九十六）

史論

福澤諭吉

世の中に是非の議論喧しけれども本來何の爲めに是にして何の爲めに非なりと其爲めにする所の根本を明にするに非ざれば千萬言の是非論も聞くに足らず忠孝は是にして不忠不孝は非なり一國の臣民誠意誠心にして君に忠なれば君の心を安んずると共に社會の安寧を致す可し一家の子孫能く和して父祖に孝なれば長者を悅ばしめて兼て又家内安全の幸を永うす可し是非の分かるゝ所謂に明白にして三歲の童子も了解に易しと雖も設百千年來の歷史に徵して世事の實際如何を充出しに視察し來れば人文の幼稚にして智德の不完全なる殆んど名狀す可らず實に驚入たる次第にして不忠不孝は獨り臣子のみならず己れ自ら不忠不孝にてありながら其不德のまゝ直に君父たりし者さへ其だ少なからず臣子たる身として斯る君父に對して如何す可きや實に持餘したる境遇なれども尙ほ上下長少の倫理人情を重んじ唯その君父の身邊をば安からしむるのみにして一國の爲め一家の爲めには假令ひ長上の意に戻るも兎も角も して治安無事を謀らざるを得ず是に於てか臣子の言行を評するに單に君父の身に關する直接の忠孝のみを言はずして其所見の範圍を廣くし一國一家の安危如何を標準にして是非得失の論據を定むるの必要を見る可し今日に於ても家に不明不智不品行の老主人を生じて家事に堪へざる者あれば親族相談の上これを退隱せしめて子に讓るか子なければ相應の養子して家名を續ぐの事例少なからず家を重んずるが故なり國も亦斯の如し國を重しとし君を輕しとするの義は古人も許す所にして結局社會の安寧を重んずるの意味なれども其實際の方法に至りては一切之を蠻すの可らず遂には干戈に訴へて政權を受授するみとわり我國王代の事は姑く擱き錄倉以來德川に至るまでの沿革を見て實際の情を知るに足る可し斯く新陳交代するも要は唯治安の如何のみにして苟も當時の執權者が政事に注意して天下太平なれば其太平なる間の人を目して名君と稱す可きのみ如何となれば國政の目的は民安に在ればなり然るに古來の史家が此事實の要を誤り執政者の身に重きを置て天下の治安を第二の談に附し去り何は兎もあれ彼の家名は云々として熱心議論して家柄を爭ふのみか其家柄の正不正も歲月と共に忘れ去るみを可笑しけれ足利尊氏の將軍たりし時は至極不埒の者なりしかども一二百年を經る間に其尊氏の子孫を犯す者は又第二の不埒者と稱せられて史家の筆誅する所と爲り、信長の權を得たる由來も甚だ面白からずと云ひながら秀吉が信雄を愚弄して志を遂うしたるは奸なりと稱し、次で其奸物の子を殺して天下を一統したる家康は更らに又大奸なりと云ふ實に際限もなき次第にして我輩の眼を以て見れば此種の史論は治亂の歷史に非ず專ら系圖の喧嘩にして然かも其喧嘩は忘れ易き憤嘩なりと評するの外無し窮したる は頼山陽の北條論にして北條七代は劇台に明主多くして其治安は足利の比に非ず當時民心の之に歸服して永く其德德を忘れざりし事實は足利の末世に伊勢新九郎が關東に家を興すとき能く北條と稱して遠近の人衆に投じたるの一事に證しても知る可し殊に彼の泰時の如き所謂智勇兼備一世の人傑たりし上爭ふ可からず其天下を經營して治安を維持したるの功は後世の許す所なるに頼氏は之を悅ばず北條は補席の上に源氏の國を簒ふたる者なりとて憤むみと甚だしく國の爲めにしたる泰時の功は以て家の罪を贖ふに足らずと筆誅宣言したるもの〻如し窮屈なりと云ふ可し又時宗が元寇を禦ぎたるの一事は千萬年も忘る可らず我大日本國の爲めに英雄の大英斷を斷して今日尙ほ稱揚止まざる所なるに頼氏は僅に時宗が父祖の罪を償ふに足るの一言を以て不本意ながらも之を遠め遣はしたるのみ筆端聊か客なるには非ずや若し萬一も此一擧が雖倉將軍何々公の英斷に出でしならんには氏は樣大の筆を揮ふて史上に特書しあらん限りの讃辭を用ひ讃じたるみとならんに唯慨むらくは時宗は將軍ならずして然かも補席の上に國を簒ふたる者の子孫なるが故に日本國の爲めに大功あるも思ふまゝに寃むるを得ず左りとて功は功にして黙して看過するとも叶はず此一段に至ては山陽先生も大に窮したるみとならんと我輩の推察する所なり畢竟史家に獨立自由の思想なく天下國家の治安と人の身分家柄と兩樣を混雜して名實の輕重を誤り是非得失論の標準を名義の一方のみに偏せしむるが故に斯る窮境にも陷るみとなり學者の宜しく注意す可き所のものなり

社說

銘々釋迦孔子たる可し

我輩は過日の紙上に於て人倫道德の進退に付き士人の責任の輕からざる次第を述べしが一歩を進めて論ずれば今日の事情特に然るを覺ゆるなり古に在て物知りと云へば先づ坊主にして百姓町人の子弟が字を習ひ書物を讀むには寺に入門せざるを得ず御布告の文句に讀み難きものあれば和尙に質問し手紙の往復にも時に其文案を乞ひ家内に風波を生ずれば仲裁を依頼するなど僧侶は恰も敎師たると同時に顧問裁判の役目をも帶ぶるが如くにして其社會上の地位甚だ高く世俗の尊信も淺からざりしに世の變遷に連れて平民も學問に出精し文明の敎育を受けて一通りの文字を知り事理を解するに至りしに反し僧侶は却て安逸を貪りて奮發の心なく學問智識の點より見れば僧俗の地位全く顚倒して骨を敎へられし者が今は却て他を敎ふるに至りしのみならず品行道德の點に於ても坊主の墮落は著しき事實なり昔は兎に角に表面丈けにても其行狀を愼みたりしに今は殆んど公然酒色の慾を恣にして檀家信徒の蔑視を受くるもの〻如き不身持にては寺の維持も覺束なし今後は少しく愼まれたしなど小言を云はるゝほどの次第なれば其信用は全く地に落ちて人は其說敎に耳を傾けず坊主の職務は單に死人取扱の一事に限れるが如く成行きしなれば僧侶の不信用に止まらず宗敎そのものも亦近年聊か動搖の色なきに非ず皆しの人民は其思想單純にして何事も盲信して疑はず是れは神の授け給ひし經典なりと云へば眞實然りとして尊奉し釋迦は斯樣に說きたりと云へば譯もなく有難しとして隨喜の涙を流すのみなりしかども今は則ち然らず智識の進歩思想の自由と共に事物に疑を起して骨て神聖と信ぜしみとも迷信たるを發明し萬世不易と思ひしみとも間違たるを見出すみと多し耶蘇も釋迦も英雄には相違なしと雖も等しく普通の人間にして而かも文明の未だ進歩せざる野蠻時代に生れしものなれば其人物も大抵想像に難からず經文なるものは則ち是等の人物が未開の民に向て說法したる行狀の規則に外ならざれば爾來幾變遷を經たる今日の世態民情に總て都合よく適合す可しとは思はれず猶ほ出來合の衣服が身に適せざるが如しとは何人も容易に思ひ至る所にして聖人の敎にも次第に疑を增し又批評を試み不理窟の文句は存立を容さず儒敎の如きは時代の精神と衝突して既に全く信用を失ひ佛敎に付ても改革を主張するもの少なからず耶蘇のバイブルも一種の古記錄として歷史的に研究すると同時に宗敎以外に新德敎を開かんとするものあるが如き何れも現在の德敎に向て不滿を表するものにして假令ひ結局は之に依頼するの外なしとするも多少の動搖は免る可らず僧侶既に無學不德にして信用を失ひしが上に德敎其物も亦動搖するに於ては何を以て世道人心の敗頽を防ぐ可きか士君子の須く心配す可き所にして我輩は上流の士に向て其責任の重きを願んみとを望むものなり昔しは一人の君主、政を專にして其意思は即ち法律と爲り人民は神聖犯す可らざるものとして只これを仰ぐのみなりしかども人文の進むに隨て君主の專權に疑を生じ民權の說四方に起りて遂に憲法を立て國會を開て人民自から法律を作り以て自から治むるに至れり即ち一人の責任を銘々の肩に分攤したるものにして道德界の責任も亦斯の如くならざるを得ず古聖人なるものは今日まで德義界に於て專權を揮ひしと雖も前にも述べたる如く次第に其敎に疑を生じて默從を肯ぜざるものあるに至ては世の士君子が道德維持の責に當るみと猶ほ人民が政權を分攤するが如くにして各々釋迦孔子を以て自から任ぜざる可らず即ち道德界の共和政治にして聖人の再生容易に望む可らずとすれば今日の風敎を維持するには此外に策ゐる可らず上流社會の責任甚だ重しと云ふ可し一言一行の微も必ず他の模範たるを期せんみと我輩の切に望む所なり

○蠶業視察（第四報）

特派員　永松遠吾

福嶋縣下の蠶業（下）

兩毛の地を探るも其齡を知り難き老桑少なからず丹波の山奥、日向の山中を探らば或は神代より生存せる老桑を發見するならん然るに予は福嶋を以て蠶業の故國と稱したるは單に路傍の老桑を一見したる推測なるが如くに難ずるものもあるべしと雖も予は福嶋を以て日本に於ける蠶業の元祖とするにあらず其故國と稱せしは最も古き時代より斯業の發達し居たるを云ふものにして今日同地方に行はれ居る温煖育の法は數十年前より陳れ骨はれ累代相傳へて頗る老練し其方法の到る處略ぼ一定せるが如きは其故國たるを證するに足るべきなり左れども予は其故國たるを稱するみと共に同地の蠶業家に向て大に望むべき點も亦一にして足らざるなり

福嶋地方蠶業の缺點

飼育法　は最も其地方の風土に適せざるを得ず之を一見して直ちに其方法を起して骨て神聖と信ぜしみとも迷信たるを發明し萬世不易と思ひしみとも間違たるを見出すみと多し耶蘇も釋迦も英雄には相違なしと雖も等しく普通の人間にして而かも文明の未だ進歩せざる野蠻時代に生れしものなれば其人物も大抵想像に難からず經文なるものは則ち是等の人物が未開の民に向て說法したる行狀の規則に外ならざれば爾來幾變遷を經たる今日の世態民情に總て都合よく適合す可しとは思はれず猶ほ出來合の衣服が身に適せざるが如しとは何人も容易に思ひ至る所にして聖人の敎にも次第に疑を增し又批評を試み不理窟の文句は存立を容さず儒敎の如きは時代の精神と衝突して既に全く信用を失ひ佛敎に付ても改革を主張するもの少なからず耶蘇のバイブルも一種の古記錄として歷史的に研究すると同時に宗敎以外に新德敎を開かんとするものあるが如き何れも現在の德敎に向て不滿を表するものにして假令ひ結局は之に依頼するの外なしとするも多少の動搖は免る可らず僧侶既に無學不德にして信用を失ひしが上に德敎其物も亦動搖するに於ては何を以て世道人心の敗頽を防ぐ可きか士君子の須く心配す可き所にして我輩は上流の士に向て其責任の重きを願んみとを望むものなり昔しは一人の君主、政を專にして其意思は即ち法律と爲り人民は神聖犯す可らざるものとして只これを仰ぐのみなりしかども人文の進むに隨て君主の專權に疑を生じ民權の說四方に起りて遂に憲法を立て國會を開て人民自から法律を作り以て自から治むるに至れり即ち一人の責任を銘々の肩に分攤したるものにして道德界の責任も亦斯の如くならざるを得ず古聖人なるものは今日まで德義界に於て專權を揮ひしと雖も前にも述べたる如く次第に其敎に疑を生じて默從を肯ぜざるものあるに至ては世の士君子が道德維持の責に當るみと猶ほ人民が政權を分攤するが如くにして各々釋迦孔子を以て自から任ぜざる可らず即ち道德界の共和政治にして聖人の再生容易に望む可らずとすれば今日の風敎を維持するには此外に策ゐる可らず上流社會の責任甚だ重しと云ふ可し一言一行の微も必ず他の模範たるを期せんみと我輩の切に望む所なり

飼育法　は最も其地方の風土に適せざるを得ず之を一見して直ちに其方法を起して骨て神聖と信ぜしみとも迷信たるを發明し萬世不易と思ひしみとも間違たるを見出すみと多し耶蘇も釋迦も英雄には相違なしと雖も等しく普通の人間にして而かも文明の未だ進歩せざる野蠻時代に生れしものなれば其人物も大抵想像に難からず經文なるものは則ち是等の人物が未開の民に向て說法したる行狀の規則に外ならざれば爾來幾變遷を經たる今日の世態民情に總て都合よく適合す可しとは思はれず猶ほ出來合の衣服が身に適せざるが如しとは何人も容易に思ひ至る所にして聖人の敎にも次第に疑を增し又批評を試み不理窟の文句は存立を容さず儒敎の如きは時代の精神と衝突して既に全く信用を失ひ佛敎に付ても改革を主張するもの少なからず耶蘇のバイブルも一種の古記錄として歷史的に研究すると同時に宗敎以外に新德敎を開かんとするものあるが如き何れも現在の德敎に向て不滿を表するものにして假令ひ結局は之に依頼するの外なしとするも多少の動搖は免る可らず僧侶既に無學不德にして信用を失ひしが上に德敎其物も亦動搖するに於ては何を以て世道人心の敗頽を防ぐ可きか士君子の須く心配す可き所にして我輩は上流の士に向て其責任の重きを願んみとを望むものなり昔しは一人の君主、政を專にして其意思は即ち法律と爲り人民は神聖犯す可らざるものとして只これを仰ぐのみなりしかども人文の進むに隨て君主の專權に疑を生じ民權の說四方に起りて遂に憲法を立て國會を開て人民自から法律を作り以て自から治むるに至れり即ち一人の責任を銘々の肩に分攤したるものにして道德界の責任も亦斯の如くならざるを得ず古聖人なるものは今日まで德義界に於て專權を揮ひしと雖も前にも述べたる如く次第に其敎に疑を生じて默從を肯ぜざるものあるに至ては世の士君子が道德維持の責に當るみと猶ほ人民が政權を分攤するが如くにして各々釋迦孔子を以て自から任ぜざる可らず即ち道德界の共和政治にして聖人の再生容易に望む可らずとすれば今日の風敎を維持するには此外に策ゐる可らず上流社會の責任甚だ重しと云ふ可し一言一行の微も必ず他の模範たるを期せんみと我輩の切に望む所なり

種　同地方一般赤熟は近年漸く減は少なしとせず父祖行せしかたみの尙ほ造家は伊達、信夫質の如何等に頓着者の望人多きも易にして虫の健強なるものの稀なれば製まで福嶋地方の種州信州は今は却て也全國到る處に横梁川の淺野氏の如をなしつゝあり其多くは從來の種に行の爲めに本年は也記せしが如く等に注意する由容易にして絲質の育法の老練は其効製絲　製種に不注意して福嶋縣下の製を加へざるは同縣の製絲を見るに器河の白清館あるの石川に一、河沼に一に各一箇處あれども生社、喜多方の北は寧ろ新場の邊に俵達、信夫の地には郡山の良製組、一處に於てし稍々は桑等にも小仕掛けの夫には一の共同繰掛田折返繰は日本

蠶業視察

飼育法　は最も其地方の風土に適せざるを得ず之を一